

Dr. Ian Harrison (イアン・ハリソン博士) からの書状

(日本語訳：CIジャパン 名取)

2015年3月10日

【アユモドキ (学名*Parabotia curtus*、以前の学名*Leptobotia curta*) の最後の生息地のひとつの隣接地でサッカースタジアムの建設を計画している京都府と亀岡市にこの手紙を届けて頂けたら幸いです。】

淡水生態系とそこに生息する魚類の保護と管理を扱う国際グループの代表としてお手紙差し上げます。私は、国際自然保護連合 (IUCN) 種の保存委員会の下にある淡水魚類専門家グループ (FFSG) の技術オフィサーを務めています。その役割から、FFSGの世界代表リチャード・シュナイダー博士をサポートしています。また、IUCN世界保護地域委員会の淡水分野タスクフォースの共同代表、および生物多様性観測ネットワーク (GEO BON) の淡水生態系変化に関するワーキンググループの共同議長も務めています。

FFSGの代表として、シュナイダー博士と私はともにスタジアムの建設がアユモドキに与える影響について非常に憂慮しています。この種は、日本のレッドリストで絶滅危惧IA類 (CR) に挙げられていますが、これは世界中で採用されているIUCNの基準に基づき、その種の絶滅の脅威が最高レベルであることを表します。IUCNがまとめる世界のレッドリストでは、アユモドキは「情報不足 (DD)」と記載されていますが、これは1996年の情報であり、日本の評価ほど現状を表していません。私は、名取氏と協力して、IUCNのリストをより新しくかつより正確な日本のレッドリストの情報を使って更新するための財源を探しているところです。ここに、アユモドキは世界レベルで絶滅が最も危惧される種であることを強調いたします。従って、すでに極度に狭い地域にしか生息しなくなっている種にとって、いかに些細な脅威であろうと非常に深刻です。さらに、この種への脅威を増大させることは、全世界で合意されている「2020年までに、既知の絶滅危惧種の絶滅及び減少が防止され、また特に減少している種に対する保全状況の維持や改善が達成される」という愛知目標12に反することになります。

アユモドキの保全上の重要性から、スタジアム予定地近隣の本種が生息する地域は、生物多様性重要地域 (key biodiversity area: KBA) であるといえます。KBAとは、「生物多様性の存続に大きく貢献する」と国際的に認められた場所であり、世界中で今後の保護地域計画の基礎になっています。愛知目標11は、生物多様性と生態系サービスに特別に重要な地域を、効果的、衡平に管理され、かつ生態学的に代表的な良く連結された保護地域システムやその他の効果的な地域をベースとする手段を通じて保全することの重要性を強調しています。私は、FFSGおよび世界保護地域委員会・淡水分野タスクフォースの同僚と共にオーストラリアのシドニーで昨年開催された世界公園会議に参加しましたが、この会議から「世界の保護地域において、淡水生態系の管理について特に関心を払うべき」という重要なメッセージが発せられました。アユモドキの生息地のような生物学的に特別重要な淡水生態系を効果的に守っていくことに世界的な関心が集まっています。明らかにKBAとなり得る場所の近くでの開発計画については、非常に慎重な判断がなされることを求めます。たとえ生息地自体が保護地域やサンクチュアリとして指定されても、近隣での大規模開発がそこにどのような影響を及ぼすかを予測することは不可能です。そのような状況下では、悪いことを想定して用心することが賢明です。IUCNは、生態系の保護と管理については、「予防原則」を推奨しています。ある活動が環境へ悪影響を与えると疑う正等な根拠があるがその影響が起こる可能性や程度に不確実性があるとき、予防原則を適用すべきとされています。

生物多様性観測ネットワークや国際的に重要な湿地に関するラムサール条約の科学・技術評価パネルは、市街地の近くにある湿地が一般社会において環境保全の牽引役となるということを明らかにしています。しかし、すでに改変が進んでいる都市部の生息環境は特に脆弱であり、湿地の保護には、慎重な計画と、周辺地域も含む広い視野でのアプローチが必要です。そのためには、重要な生息環境は、その周辺に緩衝地域を配置するなどして守り、将来起こりうる変化（人為的なものであろうと気候変動であらうと）に適応できるようにしなければなりません。生物多様性観測ネットワーク・淡水生態系変化に関するワーキンググループの検討では、淡水の生物多様性の保護は、既存の淡水生態系の慎重なモニタリングとその情報を計画に活用することにかかっていることが示されています。アユモドキについては、生息環境のすぐそばの開発事業が個体群に対して影響を与えないと結論付けるには、個体と生息地のさらなるモニタリングが必要と考えます。

スタジアム建設の件は、明らかに保全上重要な課題です。種の絶滅を引き起こす脅威になります。一方、国際的に推奨されるプロトコルや自然の保護と持続可能な利用について合意されている目標を尊重しながら、保全のための方針が早期になされれば、良識ある地元およびより広域の意思決定が国際政策を正しい方向に導くモデルとなるでしょう。この地にスタジアムを建設しないという正しい判断を求めます。

イアン・ハリソン